

第3回キャリア教育研究部研修会 報告書

1 授業実践

＜単元名・授業者名＞

単元名 2年生 総合的な学習の時間 浜松の魅力で変える!
～SDGsと仕事をつなぐ～「浜松の魅力×SDGs→仕事」
授業者 篠原中 教諭 鈴木一輝

＜本単元で育成を目指す基礎的・汎用的能力＞

◎考える力(課題対応能力)

地域の魅力を再発見し、それらが社会課題(SDGs)の解決や仕事とどう関わるのかを考えることができる。

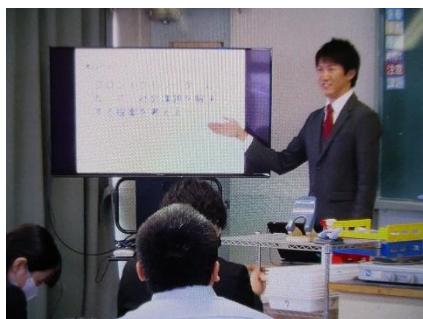
＜単元構想＞

本校の2年生は、昨年度の総合的な学習の時間で「防災×SDGs」をテーマに、浜松市の防災の取り組みと社会課題(SDGs)の視点を結び付けながら、自分なりの問い合わせをもって調べ学習や発表活動に取り組んできた。社会課題を知り、地域とのつながりを考える姿勢が育つつある。

今年度は「働くこと」をテーマに、「浜松の魅力×SDGs→仕事」という視点で、地域の資源や産業を活かして社会課題を解決するような仕事やプロジェクトを考える学習を展開していく。昨年度の学びを土台に、地域や社会、そして自分の将来とのつながりをより具体的に実感できるようにすることをねらいとした。

一方で、本校の生徒は、「働くこと」や「将来の職業」に対する関心には個人差があり、まだ漠然としたイメージしかもてていない生徒も多くいる。そのため「仕事は遠い未来の話」と捉えている生徒も少なくない。また、過去の経験や思考にとらわれ、新たな意見を考え出すことが苦手な生徒が多い。さらに、将来像を描くことに対して消極的な姿も見受けられる。ただし、タブレット端末の活用には慣れており、調べ学習や情報整理、発表スライドの作成などには前向きに取り組む姿勢が見られる。友人と協力しながら学ぶ活動に対しては意欲的で、特にグループでのアイデア創出や役割分担を通して、自分の力を発揮しようとする生徒も多くなってきている。

そこで本単元では、浜松市の魅力と SDGs の視点を手がかりに、自分たちで問い合わせ立て、課題を見つけ、仲間と協力しながら解決のアイデアを考え、プレゼンテーションとしてまとめる学習を通して、「考える力」(課題対応能力)や「チャレンジする力」(キャリアプランニング能力)を育てたい。また、探究活動を通して「働くこと」への見方を深め、自分の将来像を少しづつ具体化する契機としたい。



2 事後研修会

地域の事情により授業公開をすることができなかつたため、授業者による指導案説明と、本時案に沿つた授業展開の説明があつた。その後、以下の視点に沿つてグループ協議を行つた。

～グループ協議より～

未知の課題に対して、新しい考え方を形にしようしたり、自分の考えを積極的に表現しようしたりしているか。

【よかった点】

- ・自分が選んだ「浜松の魅力」に対して、社会課題(SDGs 17の目標)がランダムで与えられるため、生徒たちが懸命に解決策を考えることが予想される。また、自分では発想しないような視点が与えられることで、視野を広げ、新しい考え方をもつことにつながるのではないかと考えられる。
- ・SDGs 17の目標の言葉だけでは解決策が想像しにくい生徒のための支援として、タブレットを使って、SDGsの具体化について調べさせる。短時間で検索できるため、それを生かして自分なりの解決策を考える時間を十分にとることができると支援である。
- ・社会課題を解決するためのプロジェクトを考える活動は、働くことの魅力を知ることにもつながる。職場体験に対する意欲を高める効果もあり、有効なカリキュラムになっている。

【改善点】

- ・意見を交流する場面では、同じ SDGsの目標を選んだ友達同士で交流するなど、意図的なグループ作りをすれば、より考えを深めることができたのではないかと思う。
- ・今回は「プロジェクトを考える」ということで活動しているが、実際に仕事として成立させるためには、需要やコストなども考える必要がある。生徒にどこまで求めるのかによっても、身につく力が変わってくると思う。



3 指導講評

犬居小学校の堀田洋一校長先生より指導講評をいただいた。

何事も、意識するかしないかで効果が変わってくる。子供たちがキャリア教育の視点を意識して活動しているか、自分の成長を実感(意識)できているか。めあてを立てるとき、振り返りを書くときなど、様々な場面で見取っていく必要がある。日々の授業で教科の力をつけていく中で、教師の言葉掛けによって、キャリア教育の視点が意識できるようになるように働きかけていくことが大切である。

